# 2022 年度　大学院入学試験問題（C 日程）（解答時間 60 分）



修士課程　臨床心理学専攻

| 科目 | 専門 | 受験番号 | | 氏名 | |
|---|---|---|---|---|---|

**Ⅰ．次の事例を読み、クライエントの理解のためにテストバッテリーを実施するとしたら、どのような心理検査を組み合わせて実施するのか具体的な心理検査の名称をあげて答えなさい（心理検査は３つ以内とします）。なお、クライエントのどのような情報に基づいて、どのように見立てて、それらの心理検査を選択したのかも必ず明記すること。また、テストバッテリーとしてそれらの心理検査を組み合わせた目的についても明記すること。**

クライエント：50 代の女性会社員

これまでは問題なく仕事をこなしてきたが、１年前に新しい職場に異動になり、仕事量が増えた。3 ヵ月前頃から、仕事でミスが増えたり、予定を忘れたり、期限までに業務を終わらせることができないことが増えてきた。上司が心配をして、業務を減らすようにクライエントに提案したが、「職場の他のメンバーががんばっているのに自分だけが楽をするわけにはいかない」と言い、その提案を断った。また、同僚がクライエントの仕事の補助を申し出たとしても、「忙しいのに申し訳ない」と言って断っていたという。その後も、上司は何度か業務負担の軽減を提案したが聞き入れず、仕事上の問題は改善しないどころか悪化した。最近ではやる気がでなかったり、休日は１日中寝て過ごしていたり、食欲もないと言う。自分の存在が職場の迷惑になっているから辞職したいと上司に話したところ、医療機関を紹介され受診することになった。

（解答欄が不足した場合は裏面を用いること）

# 2022 年度　大学院入学試験問題（C 日程）（解答時間 60 分）



修士課程　臨床心理学専攻

| 科目 | 専門 | 受験番号 | | 氏名 | |
|---|---|---|---|---|---|

Ⅱ．下記のうち、５つの用語について簡潔に説明しなさい。その際、A群の用語は２つとも選択し、B群の用語の中からは３つを選択しなさい。指定を超えた数の解答がなされた場合、B群の全解答を採点対象外とするので注意すること。なお解答する際は、選択した用語の番号を書くこと。

| | | |
|---|---|---|
| A 群 | １．心理教育 | ２．帰無仮説と対立仮説 |

| | | |
|---|---|---|
| B 群 | １．解離 | ５．普遍的無意識 |
| | ２．系統的脱感作法 | ６．CAARS |
| | ３．ナラティブ・セラピー | ７．AA |
| | ４．前操作期 | ８．ストレンジ・シチュエーション法 |

（解答欄が不足した場合は裏面を用いること）

# 2022 年度　大学院入学試験問題（C 日程）（解答時間 60 分）



修士課程　臨床心理学専攻

| 科目 | 英語 | 受験番号 | | 氏名 | |
|---|---|---|---|---|---|

Ⅰ．次の英文を和訳しなさい。

There is something less obvious that this historical and evolutionary view of the reading brain gives us. It provides a very old and very new approach to how we teach the most essential aspects of the reading process－both for those whose brains are poised to acquire it and for those whose brains have systems that may be organized differently, as in the reading disability known as dyslexia. Understanding these unique hardwired systems－which are preprogrammed generation after generation by instructions from our genes－advances our knowledge in unexpected ways that have implications we are only beginning to explore.

Thus the reading brain is part of highly successful two-way dynamics. Reading can be learned only because of the brain's plastic design, and when reading takes place, that individual brain is forever changed, both physiologically and intellectually.

出典：Wolf, M.（2017）. *Proust and the Squid: The Story and Science of the Reading Brain.* US: Harper Collins.

（解答欄が不足した場合は裏面を用いること）

# 2022 年度　大学院入学試験問題（C 日程）（解答時間 60 分）



修士課程　臨床心理学専攻

| 科目 | 英語 | 受験番号 | | 氏名 | |
|---|---|---|---|---|---|

**Ⅱ．次の英文を読み、１～５の問いに答えなさい。なお、解答する際には、どの項目に解答したのかがわかるように、必ず最初に番号を示すこと。**

This report investigated the improvement in Automatic and Focused styles of hair pulling among youth with trichotillomania (TTM). Youth with TTM ($N$ = 40) participated in a clinical trial that compared (1)habit reversal training (HRT) to treatment-as-usual (TAU). (2)Participants completed a baseline assessment to characterize hair pulling severity, self-reported hair pulling styles, and co-occurring psychiatric conditions. (3)Youth were randomly assigned to receive eight weekly sessions of HRT or eight weeks of TAU. Afterward, youth completed a post-treatment assessment of hair pulling severity and hair pulling styles. Youth in the TAU condition then received eight weekly sessions of HRT and completed another post-treatment assessment. Analyses revealed that the Focused pulling style largely improved with HRT ((4)$d$ = 0.73) compared to TAU ($d$ = 0.11). However, there was limited improvement for the Automatic pulling style following either HRT ($d$ = 0.10) or TAU ($d$ = -0.31). This same pattern of effects was also found during open-label treatment with HRT. Although behavior therapies such as HRT are the principal treatment for youth with TTM, the Automatic pulling style exhibited limited improvement to this therapeutic approach. Therefore, therapeutic strategies that enhance awareness to pulling behaviors may produce more robust outcomes to behavior therapy for youth with TTM.

出典：McGuire, J. F., Myers, N. S., Lewin, A. B., Storch, E. A., & Rahman, O.（2020）. The influence of hair pulling styles in the treatment of trichotillomania. *Behavior Therapy*, 51, 895-904.（ただし、内容を一部改変している）

1. 下線部（1）の habit reversal training について説明しなさい。
2. 下線部（2）に関する①②に答えなさい。
   ① 参加者について本文中で説明されている箇所を英文で抜き出しなさい。
   ② ①で抜き出した英文を訳しなさい。
3. 下線部（3）を訳しなさい。
4. 下線部（4）の $d$ とは何かを説明しなさい。
5. HRT について、この研究から得られた知見を簡潔に述べなさい。

（解答欄が不足した場合は裏面を用いること）

# 2022 年度　大学院入学試験問題（C 日程）（解答時間 60 分）



修士課程　臨床心理学専攻

| 科目 | 小論文 | 受験番号 | | 氏名 | |
|---|---|---|---|---|---|

**Ⅰ．ロジャーズ（Rogers,C.R.）のクライエント中心療法に関する以下の問いに答えなさい。なお、解答する際には、どの項目に解答したのかがわかるように、必ず最初に番号を示すこと。**

1）ロジャーズは、クライエントの治療的人格変化が生じるためのセラピストの条件として Genuineness、Unconditional positive regard、Empathic understanding の３つを挙げている。この３つを日本語に訳し、それぞれについて説明しなさい。

2）心理療法では、しばしば Unconditional positive regard を維持することが難しくなる場合がある。そうしたことが生じる背景および対処法として考えられることを、できるだけたくさん述べなさい。

（解答欄が不足した場合は裏面を用いること）